



## CHAPTER 32

# アシスタントの削除

Unified CM Assistant のアシスタントを削除しても、Cisco Unified Communications Manager は、そのアシスタントをユーザとしてディレクトリに保持します。たとえば、アシスタント *thudson* が、*hart* と *dstewart* という 2 人のマネージャに割り当てられているとします。*thudson* と 2 人のマネージャとのアソシエーションを削除するには、アシスタントとしての *thudson* を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除します。削除した後も、ディレクトリには *thudson* がユーザとして残ります。

## Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- 「クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除」(P.32-1)
- 「カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除」(P.32-3)

### クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内にあるマネージャとのアソシエーションからアシスタントを削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistants)] > [アシスタントの削除 (Delete Assistants)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。[アシスタントの削除 (Delete Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [検索対象: アシスタント、検索条件 (Find Assistants where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。
- [ユーザ ID (User ID)]
  - [名 (First Name)]
  - [ミドルネーム (Middle Name)]
  - [姓 (Last Name)]
  - [部署名 (Department)]

2 番目の [ 検索対象 : アシスタント、検索条件 (Find Assistants where) ] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ が次の文字列で始まる (begins with) ]
- [ が次の文字列を含む (contains) ]
- [ が次の文字列と等しい (is exactly) ]
- [ が次の文字列で終わる (ends with) ]
- [ が空である (is empty) ]
- [ が空ではない (is not empty) ]

**ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



**ヒント** データベースに登録されているすべてのアシスタントを検索するには、検索テキストを入力せずに [ 検索 (Find) ] をクリックします。



**(注)** アシスタントを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに **12, 24** と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

**ステップ 4** クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[ 絞り込み (Search Within Results) ] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

**ステップ 5** [ 検索 (Find) ] をクリックします。

検索されたアシスタントのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ ユーザ ID (User ID) ]
- [ 名 (First Name) ]
- [ ミドルネーム (Middle Name) ]
- [ 姓 (Last Name) ]
- [ 部署名 (Department) ]

**ステップ 6** [ ジョブ情報 (Job Information) ] 領域に、ジョブの説明を入力します。

**ステップ 7** アシスタントを即座に削除するには、[ 今すぐ実行 (Run Immediately) ] オプション ボタンをクリックします。アシスタントを後で削除するには、[ 後で実行 (Run Later) ] をクリックします。

**ステップ 8** [ 送信 (Submit) ] をクリックして、アシスタントを削除するジョブを作成します。

**ステップ 9** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[ 一括管理 (Bulk Administration) ] メインメニューの [ ジョブスケジューラ (Job Scheduler) ] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 79 章「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル \(P.80-3\)](#)」を参照してください。

#### 追加情報

「[関連項目 \(P.32-4\)](#)」を参照してください。

## カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のアシスタントのアソシエーションを検索できます。

### 始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するアシスタントのユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[ファイルのアップロード](#)」(P.2-3) を参照してください。

カスタム ファイルを使用してアシスタントのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なアシスタントのアソシエーション レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。アシスタント ID の値を入力します。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ / アシスタント (Managers/Assistant)] > [アシスタントの削除 (Delete Assistants)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。[アシスタントの削除 (カスタム) (Delete Assistants Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [削除対象: アシスタント、検索条件 (Select Assistants where)] フィールドで、識別子 [ユーザ ID (User ID)] を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のフィールドである [カスタムファイル (Custom File)] ドロップダウン リスト ボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。  
検索されたアシスタントのリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** アシスタントを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。アシスタントを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** アシスタントを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします
- ステップ 8** このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。  
ジョブの詳細については、[第 79 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。  
ログ ファイルの詳細については、「[BAT ログ ファイル](#)」(P.80-3) を参照してください。

### 追加情報

「[関連項目](#)」(P.32-4) を参照してください。

## 関連項目

- [「Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除」\(P.32-1\)](#)